

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

報告日

7年 11月 10日

P T A名		静岡県立浜松特別支援学校 P T A (磐田分校)				
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	30人				

1. 使用状況

寄贈物品名	エアポリンフラット
使用学年及び人数	小学部 1～6年 16人
使用頻度	・ 不定期
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別活動（学級活動）の時間に、レクリエーション活動として使用する。 ・ 単元で使用する場合は一定期間、毎日使用する。 ・ 雨天時の室内遊び用に使用する。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 穏やかな揺れを楽しむ姿、激しく上下する揺れを楽しむ姿、エアポリンの空気が抜けていくにしたがって体が沈んでいく感覚を楽しむ姿が見られる。 ・ 不安定な足場で立つ、足踏みやジャンプをする、不規則な揺れに合わせて座り続けるなど、体の使い方を学ぶにも非常に効果的である。 ・ 一人用のスプリング式トランポリンを好んで使っていた子どもも、エアポリンでは隣で友達が跳びはねることを期待して関わりながら楽しむようになった。 ・ ダイナミックな動きや体を動かすことが好きな子は、たくさんジャンプをしてエネルギーを発散することで、ストレスの軽減につながっているように見られる。 ・ 今年度は、子どもの発想でエアポリンをステージに見立てて発表の場にする試みも見られ、子どもたち自身が新たな使い方を考える動きもあった。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ エアポリンを使用することを楽しみにしている児童が多く、準備や片付けを進んで手伝う様子が見られ、心の安定につながっている。 ・ 今後も継続して使用し、体幹やバランス感覚の強化につなげたい。 ・ 引き続き、友達と楽しく遊ぶためのルールを児童自身が決めていく中で、社会生活に必要なことを学ぶ機会にしていきたい。 ・ 体育科「器械・器具を使っの運動」の授業の中で活用したい。
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度に続き、有効に使わせていただいています。エアポリンは他のスプリング式と異なりバネ部がなく安全で、踏み外しや挟み込みの心配が少なく、またより柔らかな跳ね心地と安定性があり、安心して使うことができる。

2. 活用の様子

学級活動（特別活動） 調整力や筋力を付けたいグループの様子

エアポリンの上でふわふわした感じを楽しんだり、友達の動きに連動した不規則な揺れに合わせて全身を使ってバランスをとり姿勢を保持しようとすることから、体の使い方を学ぶにも非常に効果を感じている。



学級活動（特別活動） 心の安定を図り、ルールを学びたいグループの様子

昨年に続いて、友達と声を掛け合いながらエアポリンを2階教室まで運んだり、セッティングを手伝ったりしている。遊びのルールが浸透しており、混み具合を見ながら交代して遊んだり、危険な遊び方をする前に互いに声を掛け合ったりして、けんかや怪我をすることなく、汗びっしょりになるまで楽しく体を動かすことができている。

